

キャラクター名 緩櫻 (ユルガシ) プレイヤー名

シンдрローム エグザイル ハヌマーン ワークス カヴァー UGNエージェント オptional 年齢 性別 男性 覚醒 生誕 衝動 破壊 初期侵食率 38% 出自 使命 経験 喪失 邂逅 いいひと

基本値 ワークス ボーナス 成長 他修正 能力値 HP 29 肉體 3 1 0 4 感覚 2 0 0 2 精神 1 0 0 1 社会 2 0 0 2 行動値 5 (非装備時) 5 戦闘移動 10 全カ移動 20

肉體 感覚 精神 社会 技能 SL 修正 技能 SL 修正 技能 SL 修正 技能 SL 修正 白兵 5 射撃 1 RC 交渉 回避 1 知覚 意志 1 調達 運転 芸術 知識 情報 UGN 3

武器・コンボ 能力 命中値 G値 攻撃力 射程 メモ 骨の剣 白兵 4r+4 6 8 腕を自在な形に作り替える。 「邪魔しないで」 白兵 6r+4 8 [メジャー] 白兵攻撃 (骨の剣)+オールレンジ+コンセントレイト+エンタングル 「逃がさない」 白兵 6r+4 8 [メジャー] 白兵攻撃 (骨の剣)+オールレンジ+コンセントレイト+エンタングル+伸縮腕 カタチ：壊 0 【マイナー】 骨の剣+オリジン：ヒューマン

防具 価格 装甲 回避 行動 メモ

所持品 コネ：UGN幹部 思い出の一品 合計装甲：0 合計回避：0 ロイス 対象 感情(pos) 感情(neg) タイタス 消費 古代種 P N きょうだい P 幸福感 N 隔意 霧谷雄吾 P 連帯感 N 無関心 都築京香 P 好奇心 N 不信感 P N P N P N 最大財産P：4 残り財産P：

スキル名 SL コスト タイミング 射程 対象 判定 制限 メモ ワーディング ★ - オート 視界 シーン 自動 - 効果： 非オーヴァードのエキストラ化 リザレクト 0 1d10 気絶時 - 自身 自動 ↓100 効果： コスト分のHPで復活 コンセントレイト：エグザイル 2 2 メジャー - - - - 効果： 組み合わせた判定のC値を-LVする。(下限7) オリジン：ヒューマン 1 2 マイナー 至近 自身 自動 RB 効果： そのシーンの間、あなたがエフェクトを使用して行うあらゆる判定の達成値を+LVする。 骨の剣 3 3 マイナー 至近 自身 自動 - 効果： 素手のデータを以下の通りに変更。(戦闘・武器・防具欄参照) オールレンジ 2 2 メジャー 武器 - 対決 - 効果： このエフェクトを組み合わせた判定のダイスを+LV個する。 伸縮腕 2 2 メジャー 視界 - 対決 - 効果： このエフェクトを組み合わせた白兵攻撃の射程を視界に変更する。このエフェクトを組み合わせた判定のダイスを-[3-LV(2)]個する。(最大0個) エンタングル 1 2 メジャー 武器 - 対決 - 効果： このエフェクトを組み合わせた白兵攻撃で対象に1点でもHPダメージを与えた場合、対象に「重圧」を与える。LV(1)回/1Sc ルーラー 4 6 セット 視界 シーン(選) 自動 Dロイス 効果： そのラウンドの間、対象が行うあらゆる判定のダイスを-LV(4)する。3回/1S ヒュドラの怒り 2 4 セット 至近 自身 自動 100↑ 効果： そのラウンドの間、あなたの行うメジャーアクションの判定のダイスを+3個し、攻撃の攻撃力を+[LV×3]する。ただしあなたは効果中、「暴走」を受ける。これはタイタス昇華を除くあらゆる方法で解除できない。 ヒューマンズネイバー 1 - 常時 至近 自身 自動 RB 効果： あなたが行う衝動判定のダイスを+LV個する。このエフェクトは侵食率でレベルアップしない。侵食率基本値+5。 ベーシックリサーチ 1 1 メジャー - - - - 効果： すべての<情報:>に組み合わせることができる。このエフェクトを組み合わせた判定のダイスを+[LV(1)+1]個する。 真偽感知 1 2 メジャー 視界 単体 自動 - 効果： 対象の声色から発言の内容に嘘がないかを見抜くエフェクト。GMは<RC>の判定を必要としてもよい。 効果： 効果： 効果：

備考：Dロイス「古代種」によるエフェクト取得 「まあ、言われた通りにやるね。他に、することもないから」 UGN武上支部で”保管”されてきた独立型レネグイドビーイング。身体を自在に変化させ、力業で障害を粉碎する戦法に長けている。立ち居振る舞いは基本的に無気力であり、便宜上エージェントの肩書こそあるが、自分のことは「研究なりなんなりに使えばいい」と全権を引き渡している。長い時間を生きているらしいが、その過去を語ることはない。 一人称：僕／二人称：君、お前／三人称：こいつ、あいつ等 趣味：お手玉 好き：チョコレート、小さい生き物 嫌い：力の強い生き物 +その他設定+ 日本のどこか、辺境の土地。 気づいた時には彼は生まれていた。当時なんて呼ばれていたかも、今はもう覚えていない。 ただ覚えているのは、自分にはたたくさんのきょうだいがいたこと、そして彼らとともに人間を見守っていくという使命があったことだ。 長い長い時間のなか、知性も教養もろくにないきょうだいたちは、それでも身を寄せ合って人間を見守った。 しかし時は流れ、彼らの隠れ住む土地を人間が開拓し始めた。 そして彼らを見つけた人間は、その異様な姿におののき、追いつてた。 みな髪や目の色、肌の色が異質だったのだから仕方ない。緩櫻にいたっては当時人の形すらしていなかったのだ。